

会 議 録

会 議 名	令和4年度第1回小金井市史編さん委員会		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	令和4年5月30日（月）午後2時から3時まで		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎801会議室		
出 席 委 員	根岸茂夫委員長 牛米努委員 中嶋久人委員 日高慎委員 井上恵美子委員 小沢賢治委員 大熊雅士委員		
欠 席 委 員			
事 務 局 員	梅原生涯学習部長 関生涯学習課長 碓井文化財係長 高木主事（学芸員）		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	0名
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	<p>1 報 告</p> <p>(1) 令和3年度の事業報告</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 令和4年度の事業計画</p> <p>3 その他</p> <p>4 次回の令和4年度第2回市史編さん委員会（第6期初回）日程 第2回 令和4年10月17日（月）午後2時予定</p> <p>5 配付資料</p> <p>(1) 令和3年度事業報告（資料1）</p> <p>(2) 令和4年度の事業計画（資料2）</p> <p>(3) 小金井市史関連刊行物計画（資料3）</p> <p>(4) 平代坂遺跡 遺跡見学会資料</p> <p>(5) 『文化財センター通信No.2』 「小金井の湧水点 part 2」</p> <p>(6) 『小金井市史編纂資料第61編 小金井市石造物調査報告(2)』</p>		

## 会 議 結 果

関生涯学習課長	<p>ただいまから令和4年度第1回市史編さん委員会を開催いたします。</p> <p>現在、新型コロナウイルス感染症につきましては、基本的対策の徹底の継続というところがございますので、本日の会議におきましても、安全・安心に、なるべく手短となるよう事務局運営に努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>本日の会議を始める前に、委員に交代がありましたので、まずご紹介させていただきます。市の職員の委員の住野副市長が3月31日付で退任しました。後任に4月1日から小沢副市長が着任してございますので、ご紹介いたします。それでは、小沢副市長、よろしくお願ひします。</p>
小 沢 委 員	<p>4月に着任いたしました副市長の小沢でございます。よろしくお願ひいたします。3月までは東京都のほうにおりまして、主に水道局のほうで仕事をさせていただいておりました。市史のほうは、副市長室に通史編だけじゃなく資料編等もありまして、ざっと拝見させていただいたところですけど、非常に分量があつて、しかも重い内容で、いろいろと私も勉強させていただきたいと思っております。引き続きどうぞご協力よろしくお願ひいたします。</p>
関生涯学習課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>事務局もこの4月に人事異動がございましたので、ご紹介いたします。生涯学習部長に梅原が着任してございます。</p>
梅原生涯学習部長	<p>梅原でございます。よろしくお願ひいたします。3月までは企画政策課というところにおりました。今後ともよろしくお願ひいたします。</p>
関生涯学習課長	<p>続きまして、文化財係長に碓井が着任してございますので、ご紹介いたします。</p>
碓井文化財係長	<p>4月1日付で文化財係長に着任いたしました碓井と申します。皆様、これから何卒よろしくお願ひいたします。</p>
関生涯学習課長	<p>このほかの市史編さんの体制といたしましては、私、あと学芸員高木、あと市史編さん担当の会計年度任用職員の体制となります。今年度も引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、議題に先立ちまして、本日の配付物の確認をさせていただきたいと思ひます。</p>
碓井文化財係長	<p>では、本日の配付物、資料のほう確認をさせていただきます。まず、A4・1枚の次第になります。あと、資料1といたしまして「令和3年度事業報告」、裏面に、資料2といたしまして「令和4年度の事業計画」、そして、資料3といたしまして「小金井市史関連刊行物計画」。そして、パンフレットになります。「平代坂遺跡 遺跡見学会資料」、「小金井の湧水点 part 2」。あと、水色の冊子になってございます、『小金井市史編纂資料第61編 小金井市石造物調査報告(2)』になります。</p> <p>以上でございます。資料の抜け等ございます方いらっしゃいましたらお声がけいただければと思ひます。</p>
関生涯学習課長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、この後の委員会の議事進行につきましては、根岸委員長に</p>

根岸委員長 お願いしたいと思います。では、委員長、よろしく願いいたします。  
よろしく願いいたします。今日はお忙しいところおいでいただきまして、ありがとうございます。昨年度、コロナの中でいろいろばたばたしたこともありましたが、無事、昨年度の仕事は終えることもできて、今年度、市史編さん委員会、息の長い、将来に向けた市史の調査をしたいというようなことだけではなく、一方で、資料編、通史編の成果をさらに市民の方々に還元していきたいというようなことで、ダイジェスト版ですとか、あるいは子ども市史ですとか、そういうようなことが今まで話し合われていますけれども、それに向けてこれからも作業あるいは審議を続けていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

## 1 報告

### (1) 令和3年度の事業報告

根岸委員長 それでは、議事に移ります。まず1、報告、令和3年度の事業報告ということで、事務局からお願いいたします。

高木主任(学芸員) まず、市史編さん委員会は、年3回を予定しておりましたところ、昨年度につきましては、第3回、2月14日においては新型コロナウイルス感染症の影響で中止とさせていただきます。そのため、第2回、10月の会議以降開催しておりませんので、その間事業を進めてきたところを中心に、以下、各種事業結果というところでご確認いただきながらご報告いたします。

1つは『小金井市史編纂資料第61編 小金井市石造物調査報告(2)』。内容は、旧貫井村及び新田村の範囲内に所在する石造物を対象としております。昨年度の(1)と今回の(2)をもって、市史編さん事業の中での石造物の報告ということは一定完了とさせていただきます。市内には、各種時代が様々なもの、調査していないものもございますので、今後の課題としつつ、計画を持って、今後も取り組んでいければと思っております。

続いて、刊行物②『小金井市史 年表・索引編』です。小金井市の市史の通史編・資料編をベースとした小金井の歴史年表と小金井市史通史編をより手に取って学びやすくするための索引をつけたものとなります。昨年度、市史編さん委員の皆様には、編集、また校正において多大なるご協力をいただきました。ありがとうございます。

続いて、古文書調査委託、こちらは毎年行っている事業です。梶野家文書の筆写、いわゆる翻刻でございます。こちらは根岸委員長にお願いしているものです。梶野家文書は非常に膨大な文書群となりますので、それを計画的に進めております。

以下、市民協力員並びに多摩郷土誌フェアというところをご覧いただければと思います。

市史編さん事業ではありませんが、文化財保護事業では、地域史講座という項目で市民向けの講座を開設して行っております。昨年度は、「小金井市史をよむ」というテーマで実施しました。「小金井市史をよむ」

という地域史講座は、昨年度及び一昨年度と2年間続けて企画するも、新型コロナウイルス感染症の関係で中止とさせていただいて、やっとの思いで昨年度実施することができました。内容は資料のとおりで、4回講座を行いました。そして、それぞれ、小金井市史編さん委員会、また『小金井市史』を編集、執筆いただいた4人の先生方に講師として、各時代を講義いただきました。なかなか難しい情勢下で何とか実施できたこと、先生方の大変なご協力のおかげだと思っております。感謝申し上げます。参加合計者数は83人となっておりますが、事前の申込みというのめかなり反響がありまして、小金井市史に対する市民の方々の関心というところが感じ取れたものでしたので、今回のこの「小金井市史をよむ」を契機にいたしまして、地域史講座の今後の継続及び発展に結びつけたいと思っております。

関生涯学習課長  
根岸委員長  
関生涯学習課長

委員長、すみません。

はい、お願いします。

私から、地域史講座について少し補足させていただきます。今、担当から申し上げたとおり、2年間延期になって、今年度開催させていただきました。それで、新型コロナウイルスの蔓延防止等の関係で、第3回、第4回につきましては、時期を延期したり、あと開催時間をちょっと短くというようになってしまいましたけれども、何とか4回ご協力いただきまして、安全・安心に開催することができました。

あと、反響の大きさというところで補足させていただきますと、この講座につきましては市報等で告知しまして、電話等、受付をさせていただいています。ほぼ1日でもう定員に達したという状況です。座席数を少し制限、少なくしたということもありますけれども、もう1日もたずしてお断りをするということがございました。それだけ小金井市民の方のこういったことへの参加意識というのは非常に高い、ということを感じました。4回、無事に開催することができましたこと、改めてお礼申し上げたいと思います。

以上です。

根岸委員長

ありがとうございます。

講座でお話いただいた先生方から何かございますか。

牛米委員

印象論ですけど、若い人も結構いたような印象を受けましたね。結構興味持ってもらえるのかなと、ちょっとそんなことを思いました。

根岸委員長

中嶋先生。

中嶋委員

結構厳しい質問された方がいて、そのことはちょっと覚えてはいますが、それ以外、人が多かったなという印象です。

根岸委員長

日高先生、何かございましたか。

日高委員

根岸先生もあれですかね。人数減らしてという。

根岸委員長

はい、そうでした。はい。

日高委員

時間も短くしてということだったので、質問もなしというような形で行わざるを得なかったもので、ちょっとそこら辺が残念だったとは思いますが、これ、1回から4回まで全部聞かれた人というのめいた

のでしょうか。

関生涯学習課長 何名かはいらっしゃったかと思います。

日高委員 それぞれのところでも市史の内容を理解していくには、こういう講座というのはすごく大切なことだと思いますので、これからも、市史を読むという形でなくてもいいのですが、続けて行ってほしい、と思います。

根岸委員長 私、やや年配の方も多かったです。多かった気がしましたが、ほかの市と比べると若い方も多いというような気はいたしました。

それから、構成を、現代、近代、近世、考古・中世という具合に遡るような構成にしたのはなかなかよかったと私は思っています、普通でしたら考古から現代までというのではなく、構成そのものも工夫があったなというように思っています。その場での反響は随分よかったように感じました。

それでは、他に何かございますか？ よろしいでしょうか？

委員全員 (特になし)

## 2 議題

### (1) 令和4年度の事業計画

根岸委員長 それでは続きまして、2の議題に入りたいと思います。令和4年度の事業計画、事務局から説明をお願いいたします。

高木主任(学芸員) 資料2と資料3を使って説明いたします。

最初に、市史編さん委員会は、今年度も引き続き年3回は変わらずの開催を予定しております。また、その下の編集委員会、こちら、随時という形になっておりますが、今後の市史刊行物等についての協議を行います。1つは刊行物を今後作成していく必要があると思っております。その中で、3の刊行計画案というところで、令和2年度を最初のスタートとして、順次刊行物を作って市民の方にお届けするというものです。

既に実施しているところだと、令和2年度、石造物のジャンルから取り上げて、『文化財ブックレット』という、簡単に手に取って見やすいビジュアル本を作成しました。文化財保護事業の中で今後柱となる書籍となっていきます。続く令和3年度は、いわゆる年表、索引を、『小金井市史 年表・索引編』として刊行したものです。このような形で、いろんな形、また対象者を少し見据えながら、様々な形で活用していければ、と思っております。今後、令和4年度、令和5年度という形で続きますが、計画ではダイジェスト版、また子ども市史という話も、当然計画する必要があります。準備作業として、今年度から次の計画の策定を準備していきたいと思っております。中期的、長期的な目線で見ると、1つはダイジェスト版、1つは子ども用の歴史本というところは計画立てて作っていきたいと思っておりますので、市史編さん委員会、また並びに編集委員会の中で協議していただきたいと思っております。

古文書調査委託は、引き続き梶野家文書、大量にあるこの資料の調査を進めてまいります。

その次の市史編さん資料の刊行です。今年度は『市史編纂資料第62

編』となりまして、「梶野新田梶野家文書(5)」、この5巻目にあるように、梶野家文書というだけでも非常にたくさんの文書がありますので、年次に分けて刊行していくものです。鋭意、これは事務局のほうで今編集作業を進めております。

続きまして、市民協力員の活動及び調査員の活動です。

まず、市民協力員の活動は、市民協働の立場から市史編さんの資料調査研究にご協力をいただいております。現在、閑野さんと美谷島さんに委嘱して、それぞれの精通している分野の中で市史編さん事業に携わっていただいております。どちらの方もそれぞれの分野ではなくてはならない協力員ということで、日々お願いをしております。また、以前市民協力員であった畑野さん、現在委嘱はしておりませんが、引き続き郷土史の調査研究を独自にされておられます。現在もご自身の活動の中で資料がまとまり次第、事務局にも届けていただいておりますので、元市民協力員の方々の活躍も非常に市史編さんにはなくてはならないものとなっています。

調査員の活動、柏木さんに市史に係る資料の収集・調査研究というところで、また今後ダイジェスト版や、子どもの市史に必要な資料及び調査というところで、専門的な見地でご協力をいただいております。

イベントの情報ですが、多摩郷土誌フェア、主催は東京都市社会教育課長会の文化財部会となっております。いわゆる多摩地区の自治体による図書販売会です。これも新型コロナウイルスの関係で、2年間中止となり開催できておりません。今年度につきましては1月21日（土）、1月22日（日）の開催を予定しておりますが、現在、社会教育課長会において開催の是非については検討しているところです。

最後に、文化財ブックレットについてご説明させていただきます。今年度は、文化財ブックレットのNo.2を刊行する予定です。市史編さん事業の中から、遺跡の情報を、文化財ブックレットに掲載することを予定しております。

今年度については、このような内容で計画して、繰り返しになりますが、今後の市史編さんを活用した刊行物の計画に際しては、ぜひ委員の皆様のご意見またはご協力をいただければと思っています。よろしくお願いいたします。

根岸委員長

ありがとうございました。令和4年度の事業計画について説明いただきましたが、ご質問、ご意見、いかがでしょうか。

編集委員会議で、市史刊行物等について協議を行うということになっていますが、令和5年度にダイジェスト版というようなことと、今年度が令和4年度ですので、あと2年でダイジェスト版を作らなければならない。本来だったら、令和4年度に原稿を執筆して、令和5年度に校正、印刷に入らなければいけないというようなことで、大分忙しくなると思いますし、それから、ダイジェスト版というと何となく分かった気分になるのですが、それぞれダイジェスト版といったときにどんなイメージを持っているのか、あるいはダイジェスト版をどう位置づけるの

か、市の歴史のどういうところを市民の方々に見ていただいて、そこから市民の方々に市の歴史の概要をどう伝えたいのかというような、そのようところもきちんと話しながら、あるいは執筆者が今いる4人だけなのか、そうじゃなく、もっと多くの人に書いていただくのか。そうすると、統一もまた必要ですし、あるいはきちんとした章立ても作らなければいけないですし、非常に忙しいことになると思います。年表編の反省も踏まえて、早めにそれを話し合っ、執筆にこぎ着けていかないと、間に合わないのではないかと気がしますので、のんびりはしてられないように感じます。とりあえずは、ダイジェスト版をどういう方向性で作るのか、あるいは項目なり目次をどうしていくのか、何ページのどんな格好の本を作るのかとか、そんなこともきちんと決めていかないと、令和5年度にはとても間に合わないのではないかと思います。できれば、また各部長で何度か話し合いを持つとか、その前に、各地のダイジェスト版がどんなものを作っているのかというようなものを集めて、それらの長所を取り入れていかないといけないと思います。そういうことを至急考えるような機会を早めに設けていただければと思いますが、先生方、いかがでしょうか。

牛 米 委 員

イメージですね。

根 岸 委 員 長

そうですね、ええ。

牛 米 委 員

まず、こんな形のというのがあって、じゃあそのために何が必要かという話に多分なるのだと思います。

根 岸 委 員 長

ええ。ダイジェスト版、中にはA4の分厚い、300ページぐらいのもあれば、200ページぐらい、100ページぐらいのものもあるし、あるいはB5判とかA5判もありますし、そういうものでどうするのかとか、あるいは何を市民に伝えたいのかというようなところはお互いに話し合わないと、それから、そういう中で目次も作らないといけないですし、例えば、ですます調にするのか、である調にするのかとか、図版をどうするのかとか、全部カラーにするのかとか、今ビジュアルなものはやっていますけれども、そんなことも、あれをするときに取りあえず部長話し合わなければいけないと思いますが、そのときに、各市で、自治体で作ったようなビジュアル版を少し集めていただいて、それを検討したり、事務局でもそれを分析するような、どんな特徴があるのかというのを分析してもらうような格好にしておかないと、話が進まないと思います。

牛 米 委 員

最近あまり自治体史の情報に触れる機会がないのですが、以前の話ですと、時代ごとに通史編とか、非常に分厚いもの1冊や、2冊とかあります。ああいうのを縮小して作成している、というものもありますし、あと、そういうのを作らないで、図録とか図説という形で作っているところもあります。

根 岸 委 員 長

そうですね。

牛 米 委 員

ちょっとそういうものまで広げていただいて、他の自治体でこんなものを作っています、という情報を集めていただけると助かります。

関生涯学習課長

事務局です。

小金井市史関連刊行物計画ということで、通史編ができた直後あたりで、その後のロードマップという形でお示しさせていただきました。先生方のご指摘のとおり、今後、今まで集めてきた資料、調査物を今度また別の形でという思いでこういう形にさせていただきました。ただやっぱり、現実問題としましては、令和5年度ダイジェスト版とはここにあります。どういった形にするか、こちらのほうでも具体的な考えを持っていない中でというのは大変ちょっと厳しいものがあるかなというのは、先生方のご指摘を踏まえて改めて認識したところです。あと、年表・索引編の編集作業も含めて、こちらの反省を踏まえつつ、刊行物を出さなくてはいけない、という前のめりなところがあった、という反省はあります。ただ、おかげさまで本はいろいろ出させていただけましたので、今後いいものを出すに当たって、今一度地固めをしないと、かえって無駄なことになってしまうのは大変皆様にご迷惑かかってしまいますので、今一度地固めをしたいと思っております。

大熊委員  
根岸委員長  
大熊委員

すみません。

大熊先生、お願いします。

今の話も含めて、今後の方向性について少しお話をさせていただきたいのですが、やはり無理をしない形でいいものを作りたいということは確かにございます。その中でやはり、ダイジェスト版というものを今こうやって考えてみると、高校の教科書が中学校の教科書、小学校の教科書になっていく感じで、より簡単なものというダイジェスト版もあれば、そうではなくて、通史を読みたくなるダイジェスト版もあるし、そういう点ではしっかり考えていかないと駄目だと思います。それから、小金井市が今あるのは、こういうことがあったから今の小金井が成り立っている、という梯子のかけ方というか、歩いてきた道のを明らかにするというダイジェスト版もあると思いますので、そうなるのかなり、ダイジェスト版でありながら、議論も必要だと思いますので、その辺の議論を固めていくということは大事かと思っております。

それから、その下にも書いてあることなのですが、小・中学校のPDFということについてなんです。このコロナ禍で全ての子供たちがパソコンを持つようになって、日常的に調べる活動が多くなったのは、明治以来の教育改革の中で最も大きな改革だったんじゃないかなと考えています。先生が「調べなさい」と言ったら、「ちょっと待って」と。図書館に行くのではなくて、「ちょっと待って」になったわけですね。そうすると、調べ学習というのが多様になって、身近に子供たちが調べられるようになったとき、やはりこういうものも含めて、実は早く子供たちが見られるようにするというのも大事なんじゃないかなと思います。読めないかもしれないですが、小学校3～4年生の子どもたちが町探検に行ったときに、あそこにある石仏、何だったんだろう。この文章読めないかもしれないけど、そこに出ているだけでも違うと思います。そういうものだったんだ。ここで僕、前、見させていただいたら、これ



はすごい昔にあったものなんだとか、これは昭和時代にできたものなどかいろいろ、子どもたちはその力量に応じて調べられると思いますので、併せて、子どもたちのためだけじゃなくて、子どもたちも変わったんですけど、多くの市民の人たちも気楽にパソコン使って調べられるようになってきていることになると、こういう本を作っておしまいではなくて、そういうものは常に資料として提示でき、さらにそれをしっかり検索できるというシステムを整えるということも今後必要だと思いますので、その辺についてもご意見をいただきたいなと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

根岸委員長  
大熊委員

ありがとうございます。貴重なご意見、ありがとうございます。

また何かありましたら、ご意見いただいて、自分のほうでも考えていきたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。今後もよろしく願いいたします。

根岸委員長

ありがとうございました。

今、大熊教育長からもご意見いただきましたけれども、日高先生、中嶋先生、いかがでしょうか。

中嶋委員

ちょっとよく分からないところがあって、ただ、どこから始まるのかというのがあって、全くゼロから始まるのか、あと予定された期間内で理想的なものを出すというのもあるでしょうし、もう一つは、この予算の範囲内でこういうものを作ってくださいというやり方もある。これはちょっと分からないですが、こちらが理想論を言っても、予算が通るわけではないので、まず、どんなイメージというのをやっぱり事務局のほうである程度は出していただかないと、こちらもちょっと議論のしようがないと思います。

根岸委員長

そうですね。

中嶋委員

例えばページ数とか何か、そういったちょっと分からないところがあって、ある程度具体的な中身についてもこちらが議論するのか、それとも事務局のほうである程度出すのか、その辺が分かりませんが、いずれにしても何らかの案は必要だろうと思います。先程来聴いていますと、どうも令和5年度の刊行にはこだわらないみたいな感じのお話だったと思いますけど、でも、そうだとすると、何もしないわけにもいかないので、なので、今年度中には何かある程度、具体的なことはなくても、まず何かたたき台のようなものは出していただきたいと思います。

根岸委員長

ありがとうございます。

日高先生、いかがでしょうか。

日高委員

皆さんおっしゃった通りで、やっぱり、どういうものを作りたいかということがまずないと、具体的に作業というのもしないということだと思いますので、だから、例えばそれを編集委員会議の中でそういう意見を出し合うというやり方も1つあると思いますが、でも、その際に、先程来先生方がおっしゃっていたような、他市町村なんかでのそういうダイジェスト版というようなものがどういうものなのか、どういうものが出てきているのかという少し情報がないと、そういうところでも話合

いがしづらいなど。もちろんそれぞれ、私もちよっと、そういえばあそこはこんなもの出しているなどか、イメージとして出てくるのはありますけれども、漠然と話していてもあまり、意味がないとは言いませんが、建設的にやるためにはたたき台が必要だなどと思いますので。

あと、PDFというのも、どういうものをイメージしているのかということになるかと思いますが、以前も、市史のどういうものをPDF化してというふうにするのか、それは検索できるような形にしないとあまり意味がないでしょうし、それ自身もやはり予算立てが必要だろうと思います。要するに、そういうことを作る業者に委託してという形になるでしょうから、そこら辺もやっぱりイメージというか、こういうものというのを考えておかないと作業ができないということにもなるでしょうから、やはりその辺を出してもらう必要があるなどと思います。

根岸委員長  
井上委員

井上先生、いかがでしょうか。イメージなど。

そうですね。要は、ダイジェスト版を作って、そしてさらにそこから子ども用のものという形でバージョンアップしていくというか、進化させていくとか、よく考えられているとは思いますが、例えば図録みたいなのをイメージするということにも、年表・索引編で随分写真を入れようという工夫もしているわけだから、それとの関係がどうなるかとか、具体的に考えていくと難しいことがいっぱいある、というのはすごく思いますので、先生方がご指摘されていることはとてもよく分かります。

根岸委員長

ありがとうございます。本当に貴重な意見です。

小沢先生、今まで都などで、例えば水道局などでいろんな本なども作ったり、一般向けの冊子なども作ったりされていると思いますが、そのようなものとの関係などで、例えばダイジェスト版といったときにどんなイメージになるでしょうか？

小沢委員

ダイジェスト版、概要版みたいな名前で、例えば計画をつくったときの簡単なポイントだけ誌面、リーフレットみたいな形にしてお配りするというやり方は結構よく使うパターンではあります。ただ、今回はもともとのこの趣旨というものが、莫大な情報が入って、どちらかというところ、一般の方々からすると、もしかしてちょっと堅いような内容になっている、と思われるかもしれません。ダイジェスト版といった場合に、誰に対してこれを作るのか、目的と対象というのをある程度決めないと、それによって、どういう形、写真中心なのがいいのか、あるいはある程度文章を入れてもいいのかとか、そういう形が変わってくる、と思って、やっぱり企画書をまず作るということの中で、目的、対象というのを市のほうで検討して、それは例えば幾つか悩むようなことがあれば、幾つか案をご提示させていただいて、ご意見いただくというやり方もあるでしょうし、やっぱり他市の例でどういうのがあるのかというのを集めると、それが何のために作っているのかというのがそれに付随していると思いますので、集めつつ、市の考えを固めていくというのが最初の作業として必要だと思います。では、それをいつやるかというところ、令和5年

度に始めるというのはちょっと遅いかなという感じがしますので、その辺のスケジュール感は事務局のほうで考えさせていただくというほうがよろしいかなと思います。

根岸委員長

ありがとうございます。3回会議があるという、1回はそれをやる必要があると思いますが、ただ、その前にやはり、部会長が一度集まって、いろいろ話し合う機会もあったほうが良いような気がしますが、そこら辺、至急考えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

関生涯学習課長

事務局です。

今、部会長会議というところでご提案いただきまして、私どものほうで今後のスケジュール感を含めて今一度、立て直しじゃないですけども、その上でまた皆様にご報告、ご相談させていただくような流れでいきたいと思ってございます。

根岸委員長

ありがとうございます。

その他、令和4年度の事業計画について何かご意見、ご質問ございますか。

日高委員

この「文化財ブックレット」の2というのはどのように進めていきますか。

高木主任(学芸員)

「文化財ブックレット」の進め方は、文化財保護事業として進めていきます。基本、基礎資料は市史編さん事業で集めたもの、精査したものを活用し、文化財担当のほうで鋭意執筆・作成を進めてまいります。

日高委員

ありがとうございます。

根岸委員長

ありがとうございます。他はいかがでしょう？

井上委員

いいですか。

根岸委員長

よろしく申し上げます。

### 3 その他

高木主任(学芸員)

平代坂遺跡の発掘調査及び遺跡見学会を報告します。本遺跡は、今年の2月から宅地造成に伴って発掘調査を行っているもので、今年の7月まで調査を実施しています。遺跡見学会を行った場所は敷地の南側半分になります。先行して敷地南側を発掘調査していく中で、今回は市内ではかなり珍しい中世、室町時代の遺跡の状況がよく残っていることが分かりました。これは公開すべきという事務局の考えで、急遽、遺跡見学会の開催を企画し3月26日に開催しました。1日だけの見学会でしたが、午前・午後合わせて1,073人という非常に大勢の方にお越しいただきました。うち約9割は市民の方でした。室町時代の遺跡は果たしてどう反応があるかなと思いましたが、蓋を開けてみれば、未就学児や小学生をはじめ、非常に多くの子どもたちも参加してくれました。その中で、私が担当となり、午前・午後、合計3回、遺跡の案内という形で説明会を設けさせていただいて、直接市民の方に今回の発掘調査の情報をお伝えしました。また、カラー刷りの資料も作成することができて、家に持ち帰ってもさらに学習できる形になるのではないかと、そういう期待をしている部分もあります。

今回の大規模な発掘調査の中で、まずは中世、特に室町時代の痕跡がよく見つかったというところで、今後、平代坂遺跡の性格だけではなく、小金井市の歴史の中で恐らく中世を十分語れる内容がここに含まれていると言っても過言ではないと思います。色々な資料を見渡す中で、この平代坂遺跡は中世の中では小金井の中心地であったのではないか、ということ推測として、配布資料の説明に記載させていただきました。

3月までに中世の調査が終わりまして、現在は敷地の北側、国分寺崖線上の台地の部分を掘っています。こちらでは現在、旧石器時代が見つかっていました。現在は、残りの調査期間の中で、さらに今後予想されるのが縄文時代の遺構や、古墳時代の墓跡が果たして出てくるかどうかというところで、それがちょっと今後の推測となります。

あとは、古いものだけではなくて、実は近現代のものも今回見つかっていて、それは今回のパンフレットには載っていませんが、現地に行って実物をご覧いただきたいのですが、近代、いわゆる昭和初期の牧場の跡がどうやら遺跡の中で引っかかっている、ということが見えてきました。その証拠として、牛乳瓶ではなくて山羊乳瓶という、ヤギの乳、要はヤギを飼ってヤギのミルクを作るということが、どうやらこの近くで行われていたのであろうということが出土した資料から見えてきました。それもちよっと実際ご覧いただけたら、と思っています。今まで小金井の近代史、現代史の中であまりそういう牧場という部分は実はなかなかスポットを当てられておりませんでした。今後、発掘調査の成果から今一度、近現代史は特に酪農関係について見直していきたいと思っています。

井上委員 先ほど「小金井市史をよむ」の企画も随分市民の方々の興味が高いというもお聞きして、講師を務められた先生方にも感謝いたしますけれども、もう一つ、資料に遺跡の見学会の資料がついていますが、1,000人以上の参加者があったということで、随分こういう歴史的なことについて、地元について、市民の興味・関心が高いとすごく思っているので、ぜひぜひそういう意味ではいろいろ工夫しながらこれからも進めていただけるといいと思います。

根岸委員長 ありがとうございます。貴重なご意見、ありがとうございます。この編さん委員会でも、この後、行って説明を受けるような形で見学したいと思っておりますが、それについてはよろしいですか。

根岸委員長 「3 その他」で何か他にございますか？よろしいでしょうか？  
委員全員 (特になし)

#### 4 次回の令和4年度第2回市史編さん委員会(第6期初回)日程

根岸委員長 次回の会議は10月17日ということで今のところよろしいですか。  
関生涯学習課長 はい。また、編集会議のほうの日程等についてはまた調整させていただければと思います。

根岸委員長 それでは、会議はここで終了して、遺跡の見学ということで、解散するというところでよろしいですね。

関生涯学習課長      どうもありがとうございました。ここで第1回の会議はこれで終了したいと思います。この後、お時間のある方は平代坂遺跡のほうにご案内いたしたいと思います。